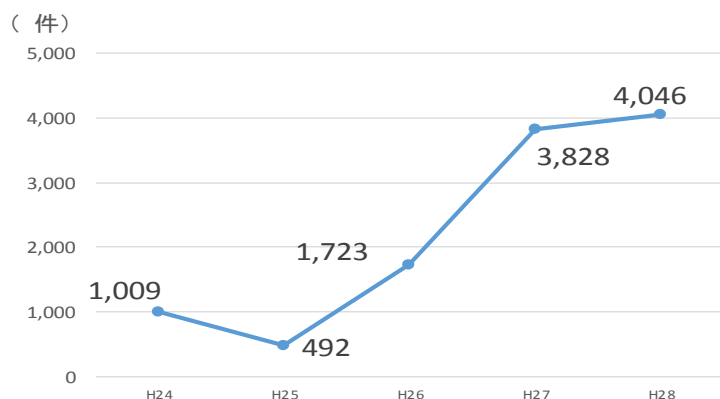


「標的型メール攻撃」多発傾向継続中！

- 平成27年に引き続き、サイバー攻撃が世界規模で発生しています。
- 情報窃取を企図したとみられる標的型メール攻撃は4,046件（前年比+218件）

【警察が把握した標的型メール攻撃の件数】



過去最多
前年比
5.6%増加！



標的型メール攻撃の特徴

- 「ばらまき型」攻撃の多発傾向が継続
全体の90%～27年から引き続き、「ばらまき型」攻撃が多数発生
- 大多数が「非公開メールアドレス」に対する攻撃
全体の約84%～攻撃者が対象の組織や職員について調査し、周到な準備を行った上で攻撃
- 多くの攻撃において送信元メールアドレスが偽装
全体の94%～攻撃対象の事業者をかたるものなど、偽装されていると考えられるものが多数
- 圧縮ファイルで送付されたファイル形式の変化
これまでほとんど報告のなかった「.js」形式ファイルが急増、「.exe」形式ファイルは減少傾向

被害防止対策

- 不審なメールを安易に開封しない。
- 各種ソフトウェアを最新の状態に維持する。
- SPF等の送信ドメイン認証技術を導入し、受信側メールサーバにおいて送信元メールアドレスの正当性を確認する。



さらに、マルウェアに感染した場合に備えて、

- **部外秘情報の暗号化**
- **アクセス権の適切な設定**
- **ネットワークの分離**

といった被害軽減のための対策を複層的に講じましょう！

参考：警察庁広報資料「平成28年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢について」
http://www.npa.go.jp/kanbou/cybersecurity/H28_jousei.pdf